



## 第3会場● 4F 視聴覚室

■司 会／大名 克英 広島県立生涯学習センター 社会教育主事  
増田三恵子 佐賀県立生涯学習センター 企画員

分科会の進め方

10:45~10:50

1 図書館が挑む地域ネットワークの構築  
～「サイエンス・モール」in飯塚の取組み～

10:50~11:20

大石 俊一(福岡県飯塚市) 飯塚市立図書館 館長

「サイエンス・モール」は、「リフレッシュ理科教室」、「理科読」、「世界一行きたい科学広場in飯塚」の3事業で構成する参加・体験型のイベントである。科学技術の恩恵の享受者であり、また担い手でもある子どもたちに、科学への関心を育て、科学リテラシーを育成することを目的としている。事業の展開に当たっては、図書館が主体となって実行委員会を組織し、市内の中・高・大学、さらには商店街も巻き込んで、協働の地域ネットワークを構築し、地域コミュニティの再生と活性化を目指している。

2 「学社融合」を積み上げて来た産山モデルの理念と実践

11:25~11:55

瀧谷 香織(熊本県産山村) 産山村教育委員会 生涯学習係長

本村は從来から「やまびこネットワーク事業」・「子どもヘルパー事業」で教育と福祉との融合モデルを進めてきた。その後も「うぶやま学」の創設など教育行政の総合化と住民主導を目指して、子ども支援事業を展開している。今回の発表は融合事業を再編し、学校や保育園を支援して、学校、家庭、地域住民の交流を図るため、「学校支援地域本部事業」として、「広げ隊」、「学び隊」、「暮らし隊」、「伝え隊」の4部門による活動を報告する。結果的に、子どもの実践も、住民の教育への参画も拡充し、小さな村の住民主導の人材育成が実りつつある。

3 「YKG60(矢掛小中高子ども連合)」の企画—発想—実践のサイクル

12:00~12:30

井辻 美緒(岡山県矢掛町) からだ喜ぶ会 代表

平成25年度にまちの活性化を目的とした「子ども連合」が誕生し、その後民間団体「からだ喜ぶ会」の「矢掛で育つ子どもの未来についてはなすカフェ」事業と合流し、YKG60となった。町のために自分たちに何ができるか、活動の企画、会議のサポートは総社市の「NPO法人吉備野工房ちみち」に委託し、月1回、学校も年齢も異なる子ども達自身が町の課題や活性化について話し合い、空き家利用のイベントや町のゆるキャラをアピールするための商品開発、地域のごみ問題の取組みなど、発見し、企画し、実践するというサイクルが回り始めている。高校の協力で、地域交流施設Forestを拠点として「からだ喜ぶ会」は、それぞれの学校と連携しながら子ども達の自主的な地域活動をサポートしている。